

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人太陽福祉会		
事業所名	グループホーム 広野の家		
所在地	帯広市広野町西3線152番地		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の協力会により、1年を通してホーム周辺の環境整備、春には菜園の準備をして頂いている。畑の草取りや収穫を利用者と共に行い新鮮な野菜が食卓を彩っている。今年は大豆を作り、収穫、殻むき、選別、味噌作りまで利用者と共に行った。お世話になっている地域の方へのお礼の意味で毎年公開講座を開いている。四季折々の風景を見ながらの毎日の散歩は、体で季節を感じながら、会話も弾み利用者はもちろん職員にとっても、楽しみの一つになっている。ニワトリやうさぎ、猫に触れ合うことで安らぎを感じていただいている。食事の準備、配膳、片付け等日常的にそれぞれ役割を持ち自分らしく暮らせるように活動的な一日を過ごしている。地域とのかかわりを多く持ち、本人の意思を尊重し、笑って過ごせるように職員は努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方々が勉強をして、想いを込めてできあがったホームであり、現在も地域の協力会から様々な支援をいただいています。畑の種まき前の準備や肥料やりなども地域の方々が協力して行っており、種まきから収穫までは職員が利用者と共に日課として畑の世話をしています。ホームで収穫された野菜はもちろん、地域の方たちから多くの野菜などの差し入れがあり、それらを活用しながら毎日の食事を利用者と共に手作りしています。地域の方たちが作って下さった東屋では干し芋や干し柿などが手作りです。玄関には2匹のネコ、庭のビニールハウスの中にはウサギとニワトリ、雪が降る前までは地域の方が庭に羊を連れてきてくれていて、利用者ともふれあっています。職員は悪天候でなければ毎日一対一で代わる代わる利用者全員と散歩に行き、自然を感じながらゆったりとおしゃべりを楽しんでいます。災害対策も兼ねて隣の管理棟には夫婦の職員が暮らしていますが、地域的に火災や災害があっても他の職員が駆けつけるには時間がかかるため、地域の方たちが駆けつけて下さるようになってきました。職員同士の関係は大変良く、3年間離職もありません。職員は、利用者が役割を持ちながら楽しめるよう気を配り、身体能力等の低下を最小限となるよう努力しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の行事に積極的に参加し、交流を深めます」をホーム独自の理念とし、見える所に掲示し常に意識しながら仕事をしている。	5項目の理念を掲げ、職員だけではなくホームを訪れる方たちにも見えるようになっていました。新たに職員が入ってきた時には法人全体で「こころえ」をもとに研修を行い、事業所での理念の共有の基礎としています。理念をもとに毎年目標を立て、職員間で共有・実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力が会があり施設周辺の整備をして頂いている。地域や小中学校の行事にも積極的に参加している。	地域の方々との想いが詰まったホームであり、積極的に関わってくださっています。「いこい」という集いで地域の80歳以上の方たちとホームでゲームや食事を楽しんだり、小中学校の行事・花植え・百人一首・カラオケやこどもの踊りのボランティアなど様々な関わりがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に認知症についての公開講座を行い、介護の情報を地域の人たちに向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施し運営に関することをすべて情報開示している。会議の中で、貴重な意見をいただき、サービスの向上に努めている。	運営状況・行事・活動報告ばかりではなく、事故などについても包み隠さず報告され、議事録は参加できなかった家族などにも送付されています。委員も積極的に発言し、一時避難の後にどうするかなど考える機会となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解決困難な問題など、地域包括支援センターに相談し助言をいただいている。	市からは主にメールで連絡があり、法人としても積極的に連絡を取っています。運営推進会議で地域包括支援センター職員から意見をもらうほか、困難事例などがある場合などには相談を行って助言をもらっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態を常に把握し会議などで職員間で確認しあい拘束のないケアを行っている	毎年2月には研修があり職員が参加し研修報告を行っています。ホームの管理職は帯広市の虐待防止ネットワーク会議の役員を引き受けており、会議などでも話し合い身体拘束のないケアを行っています。玄関の鍵も夜間以外はかけていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し職員の知識向上を図り虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。必要のある方に対しては協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明書、運営規定等の説明を行い不明な点には納得していただけるまで対応し、安心して生活していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や、行事のお誘いなど行い、顔を合わす機会を多く持ち、面会時にもゆつくりと意見要望を聞く時間を設けている。	利用者との日々の会話の中から意見や要望を受け取れるようにしています。年2回の家族会にはほとんどの家族が、ほぼ毎年行われるホームの温泉一泊旅行にも多くの家族が参加し、面会時以外に意見を聞く機会となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案を取り上げるシステムがある。月1回スタッフ会議を行い自由な意見が言い合える様努めている。	職員は協力・団結力があり会議だけではなく普段から積極的に相談をしあえる関係にあります。法人全体では年1回職員からの提案制度があり、費用のかかることであっても提案でき、採用され実現されているものもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の適性を見極め、話し合いの元得意分野を生かせる業務分担を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修に参加し、会議等で発表し意識や技術の向上を行っている。月に一度課内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝グループホーム協議会に加盟し相互研修等に参加し、他のグループホームの職員との意見交換の場も作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の見学や面談などで、不安を解消する取り組みを行い、少しでも場の雰囲気になじめるよう相談しながら工夫している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談を行い要望等を聞き不安の解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の見学面談を行いホームでの生活環境、サービス内容等説明し納得してもらっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活が営まれるように得意分野、役割等に配慮して生きがいにつながるように配慮している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現状報告を密にし家族と共有できるよう努めている。又病院の受診は、出来る限り家族にお願いしている。月に1度、家族にお便りを出し来園できない家族にも状況を報告している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者個々のこれまでの生活や想いを聞き住んでいた場所や、なじみのある場所へのドライブを行っている	利用者の多くは地域で暮らしてきた方であり、ご近所の方が来ておしゃべりしてくださったりしています。馴染みの美容室や寿司屋、墓参りなどにも行くように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の機会を持ち助け合う関係を作っている。散歩、家事等手伝いなどを通して関わり合いが出来るよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の家族からの相談を受けたり、入院先や併設の特養に入所された方の所へ訪問したりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の行動や表情等から意向や想いを把握している。又、利用者が遠慮することなく何でも話し合えるような関係を築いている	センター方式を使い、家族に書いてもらえる部分はお願ひしています。一対一ならば話してくれる方も多いので、散歩や入浴などの他にもできるだけ時間を作っています。発語が少なくなった方にも笑顔が出るよう働きかけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し家族からも生活歴を聞き今までの暮らしができるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ベースに合わせながらも生活全般に参加することで持てる力を発揮でき、達成感、労働の喜びを感じてもらえる様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の状態を把握し会議等で意見を出し合いモニタリングを実施し、チームで取り組んでいる	1ヵ月毎に会議でモニタリングを行い、介護計画は3ヵ月毎に見直しを行っています。状況変化時には状況に即した介護計画を作成していますが、全体として利用者の身体・認知能力の低下も少なく、病気等で一旦身体能力が落ちた場合でも働きかけで回復することが多くあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中夜間とも記録している。介護計画に基づいて記録することで見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域に即したホームとしての地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流を持っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。又、文化的な環境に触れることができるよう公共施設、娯楽施設等に外出している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に嘱託医に診察してもらっているが本人、家族の希望のかかりつけ医にも見てもらえるよう支援している。看護師も定期的に訪問し適切な医療が受けられるよう支援している	月に一度、近くの同系列の法人施設に来る嘱託医に定期受診していますが、本人や家族が希望する嘱託医以外の医療機関にかかる際には職員から家族に状況を伝え、適切な医療が受けられるようにしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により状態報告しながら適切な指示を仰いでいる。緊急時には、看護師に支持を仰いでから対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については医療機関と連携し入院が長期にならないように配慮している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し本人、家族の希望があれば可能な限りホームで対応できるよう努めている	市中心部からは遠く、訪問診療に来てもらうことは難しいという状況ではありますが、家族や医師と話し合いを重ね看取りも行ってきました。これからも医療行為が必要になるまで希望に添ってできる限りの対応をすることとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時にはすぐに対応できるよう研修会にも参加している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急対策対応マニュアルと緊急連絡網を作成し年2回は避難訓練を実施している。近隣の方に地域防災協力員になって頂き、一緒に避難訓練に参加していただいている	緊急時に備え地域の方々が作ってくださった隣の管理棟に職員夫婦が住んでいます。災害対策委員を配置し、一時避難の後の対応についても検討しています。備蓄倉庫には毛布やランタンその他、水や食料品なども3日以上備蓄しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮した対応や声掛けを心がけている。会議等で全員に意識を徹底させている	接遇マニュアルがり、言葉遣いなどについても会議等で協議し、徹底しています。利用者の意思を尊重し、同性介助を希望される利用者にも対応できるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちをしっかり聞いて出来るだけ本人の気持ちを尊重しながら生活して頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や家事など本人の気持ちを尊重しながら生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が必要な化粧品、衣類等職員が代行して購入したり、本人と一緒に掛けおしゃれができるように支援している。又行きつけの美容室への送迎も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう調理や盛り付け等利用者と一緒にやっている。旬のものを(山菜等)利用者の方と一緒に処理し、美味しくいただいている。又畑で採れた大豆を利用者と共に収穫し味噌づくりを行っている。	ホームの畑で採れた野菜の他、地域の方々からいただく野菜を使ったり、散歩の途中などで採った山菜を利用者と共に下処理を行ったりしながら食事の用意をしています。味噌・コロッケなど食事は全て利用者と一緒に手作りする他、行事の時のお菓子なども手作りしています。	毎日の食事などを利用者と共に手作りすることを日課としていますが、出来た食事を職員が共に食べられるようになることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙に一人ひとりの食事、水分量の記入を行い健康状態の把握に努めている。変化のある時には看護師と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝時には必ず口腔ケアを行っている。又口腔状態により必要な方、自ら口腔ケアの出来ない方には毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導をおこない、出来るだけトイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表で記録し、いろいろ工夫しながら全員をトイレに誘導しています。オムツを使用している利用者は一人もなく、パットだけの利用者やパットも使っていない利用者も声掛けで排泄を行っています。トイレが5ヶ所あり、それぞれ気に入ったトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩等で運動量を増やし出来るだけ自然排便が出来るようにしている。玄米、オリゴ糖、センナ等を利用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来るだけ同性介助を行い、羞恥心に配慮し、ゆったりとした気持ちで入浴していただいている。又、足の冷たい方には就寝前に足浴を行っている	入浴を拒むことが多い利用者方には何度も声を掛け、職員を換え、全ての利用者に週2回は入ってもらえるように努力しています。できる限り同性介助を行い、一緒に歌ったり、一対一でおしゃべりする良い時間となっています。足が冷える方には就寝前に足浴も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高める事で安眠の確保を図り就寝時間まで楽しむことの工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず読んで副作用には注意している。又、状態を観察しながら看護師と相談し、医師に確認して薬の調整を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	慣れ親しんだ家事や畑仕事など一人一人の習慣や機能に合わせ参加できるように支援し役割意識や達成感を持っていただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課となっている散歩の他、希望に沿って買い物やドライブなど戸外に出る機会を設けている	天気が良ければ毎日1回一人ひとりと散歩に出掛けています。月に1回はドライブに出掛けたり、食事の用意の買い物と一緒に出掛ける・ウサギやニワトリのエサやり・呼べば来る庭の羊と触れ合うなど、寒くても外気浴に出られるようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはして頂いている。買い物等で金銭感覚を失わない様になっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話をかけたいときに掛けてもらい家族との関係が維持できるように勤めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるために設えを変えたり花を飾って生活感を出している。利用者の状況によっては過ごしやすい環境にする為に部屋の模様替えも行っている	ホームは元々デイサービスも行ってた建物で非常に広く、利用者の状況を見ながらたくさんのソファを置き各々の居場所を作っています。壁には大きく伸ばした行事の写真を飾ったり、植物を置いたりしています。窓からはニワトリやウサギがいるビニールハウス、畑、雪が降る前は羊などが見え、玄関には猫を飼っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者が使いやすいようソファがいくつか置いてあり、利用者がそれぞれ好きな場所に座りテレビやおしゃべりを楽しんだり、のんびり昼寝などしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参していただき家族の写真などが飾られ、本人が心地よく暮らせる工夫をしている	居室にはなじみのものを持って入居してもらっています。家族の写真や観葉植物などが置かれており、利用者が解りやすくなるよう目印をつけ、自分で行うことが多くなるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は家具ベッド等、個々の利用者の機能に合わせて配置し、危険がないように配慮している。又、手すりも多く安全に歩行できるようになっている		